

第2回 上関フィールドワーク 報告レポート

経済学科 麻田・富田・前原ゼミ

8月11日（火）に上関町で行われた「磯の生きもの観察会」に、麻田・富田・前原ゼミの学生がイベントのボランティアスタッフとして参加してきました！

山の日に海でフィールドワークをしようじゃないか！！という、粋なイベントでした。



◎ 入念な「事前準備」と密度の高い「事前学習」

私たちは前日入りし、資料作成や機材準備、当日の打ち合わせなどのイベント準備を行いました。



準備に勤しむ学生たち

イベントには、総勢 44 名の方が参加されました！なんと過去最多の参加人数だそうです！



まず午前には、鹿児島大学から来られた2名の講師の方々を通して、磯の生きものについての事前学習を行いました。質疑応答が特に大盛り上がりでした！

一番食いついて質問をしていたのは山大的教員たちだったということはここだけのお話です。



鹿児島大学の金井さんと栗山さん



質疑応答タイム



◎職人技が光る「漁師めし」

お昼には、本イベントの船長と料理人を務めてくださった漁師のみなさまにより、上関の漁師めしをみんなで楽しみました！

今回ご提供いただいたお魚は「ハモ」でした！（右下の写真をご参照ください。）



本イベントの船長兼料理人の漁師のみなさま



漁師めし

写真だと見づらいのですが、実はこのハモ、漁師さんが包丁で一つ一つ丁寧に切り込みを入れてくださっているんです！！44人分ですよ！！筆者が一人でやったら3万年はかかります。

熟練の職人技への感激と、地域の方々のおもてなしへの感謝の気持ちでいっぱいです。



熟練の職人技が光るハモ

◎ 実地での採取と学び

おいしいご飯をいただいた後はいざ、フィールドワークへ！！

普段漁師さんが使っている船に乗って磯へ向かい、そこでみんなで磯の生きものの採取を行いました！



漁船に乗れる機会なんて滅多にないですね。なんて贅沢。



磯に到着



ハンターモードに移行します

子どもも大人もみんな夢中になって生きものを探していました。

なお、一番夢中になって探していたのは、もちろん鹿児島大学から来た講師の方々です。

さすが研究者。熱量が違います。



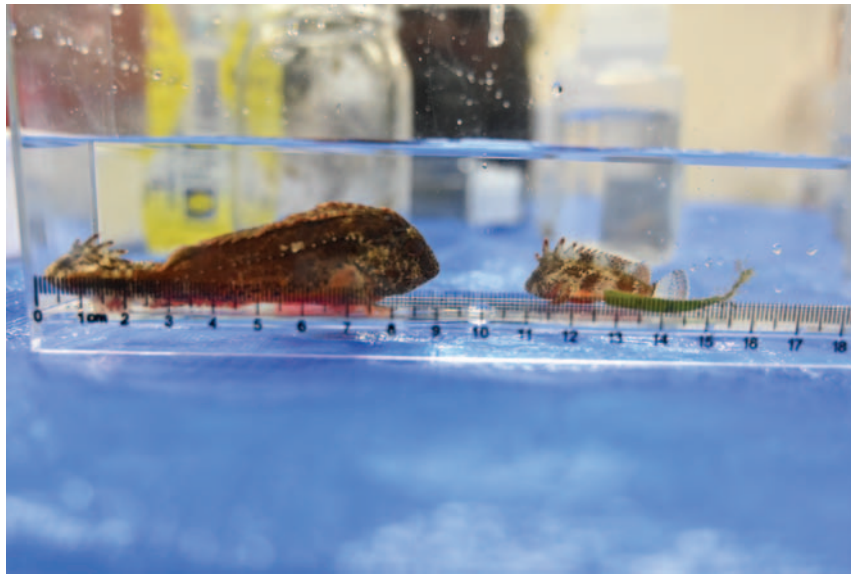


夏の思い出のワンシーン

磯から帰ってきたあとは、参加者のみなさんが採取した磯の生きものの観察会をしました。
自分たちが捕まえた生きものは一体なんという名前の、どんな生きものなのか、講師の方に解説をしてもらいながら、いろんな磯の生きものを間近で観察しました。



興味津々に説明を聞く参加者のみなさん



磯で採取された魚

例えば、この写真の右側に写っているのは「ハオコゼ」という魚で、背鰭の棘には毒があるそうです。毒をもつ魚についても、午前の事前学習の時間に、「鮮やかな警告色によって自身の毒性を周囲に伝える（＝シグナリング）」といった生物の生存戦略を学び、磯から帰ってきた後は講師の方々から教わったことを間近で確認しました。驚きと発見の絶えない刺激的な時間でした。

この2日間のフィールドワークを通じて、学生たちは座学にとどまらず、現場での実践と地域の方々との交流や対話の中から、多くの知見を獲得しました。経済学科では中々聞けない、生物の知識を専門家の方々から直に伺うことができ、上関町の豊かな生物多様性を間近で実感する貴重な機会となりました。上関町のみなさまや、イベントに携わってくださったみなさまに感謝申し上げます。

今後も、本プロジェクトは上関町のみなさまのお力をお借りして地域実践を行い、学びを深めていく予定です。これからの活動に、ぜひご期待ください！！